

青森市総合計画審議会 第1回 第4分科会 議事要旨

【日 時】平成30年5月9日（水）14：40～16：45

【場 所】ホテル青森 3階 はまなすの間

【出席者】井上 隆 分科会長、木村 克己 委員、本田 明弘 委員、森内 忠良 委員
計4名

【欠席者】大坂 美保 委員

【オブザーバー・傍聴者等】なし

【事務局】能代谷総務部長、八戸環境部長、大櫛都市整備部長、小鹿企業局水道部長、
多田企業局交通部長、加藤青森地域広域事務組合事務局長、
蝦名青森地域広域事務組合消防長、館山企画調整課長、角田企画調整課主事、
久保企画調整課主事 計10名

【配付資料】

- ・青森市総合計画審議会 分科会の流れ
- ・青森市新総合計画「－元気都市あおもり 市民ビジョン－」後期基本計画フォローアップ表
- ・各種統計データ
- ・各種指標データ
- ・日程調整表
- ・青森市新総合計画「－元気都市あおもり 市民ビジョン－」後期基本計画 冊子

【会議の概要】

○本分科会の役割とスケジュールの再確認したのち、各資料の見方、各施策における本市の課題について、各委員が意見を出し合った。

○審議、質疑応答の概要

「まちづくり」分野

（委員）

- ・4ページ「2. 施策における主な事務事業と実績」の＜青森駅周辺整備推進事業＞に西口駅前広場の整備を進めているとあるが、私は二年前に青森に来て西口に住んでいるが、二年前からどのように整備が進んだのか。

（事務局）

- ・形としては二年前と変わっていないが、今年度、詳細設計をすることとしており、これから新しい形にしていく状況である。

（委員）

- ・「各種統計データ」の15ページ「一人当たり都市公園の面積」について、年々右上がりになっているが、人口減少により右上がりになっているということもあるのか。

(事務局)

- ・都市公園を整備して面積が増えたことと、人口が減ったこと、両方の要因が考えられる。

(委員)

- ・「まちづくり」を進めていく上で、どうしても市だけでは運営に限界があるが、国や県との関わりは、どのように考えれば良いのか。

(事務局)

- ・今回改定する総合計画には、市として取り組むべき内容を記載するが、その他、国や県が当然関わってくる部分等については、総合計画とは別に、市から重点事業要望等により、お願いしていく形になると思う。

(委員)

- ・市内には駐車場が非常に多くなってきているが、市民には駐車場を緑化する意識があまりないと思うため、駐車場や空き地の緑化に取り組む施策を入れれば、景観上も良くなると思う。
- ・緑化事業は、もっと市民に協力を仰ぎ、緑化運動を展開していただきたい。
取組の方法は検討する必要があるが、市民の協力を得て、もっと緑の多いまちづくりをしていただきたく、今後の課題として、もう少し具体的な施策の方法を記載した方が良い。
- ・空き家をはじめとする既存住宅ストックの有効活用について取り組んでいくことは、市として必要な施策と思うが、もっと具体的に詰めた課題として出していく必要があると思う。
- ・長崎市では、空き家の所有者に対し、土地・建物を市に全部移管した場合、市が解体費用を持つという条件を付して移管を促し、空き家を解体し都市公園にしたという事例があり、都市公園にすることで、非常時の防火空間になることから、青森市でも空き家を色んな形で活用してはどうか。
- ・16 ページ「2. 施策における主な事務事業と実績」の〈くらしの道道路整備事業〉とあるが、くらしの道とは、県道や市道などを表しているのか、それとも別のことを表しているのか教えてほしい。

(事務局)

- ・どこの路線として決めているものではなく、歩行しやすいよう電柱を少し移設する、通りやすいよう道端の側溝を埋めるなど、地元に着した道路整備をする意味の事業名である。

(委員)

- ・青森県は風力発電の設備容量が日本一であることから、国で推進しようとしている洋上風力を北東北や北海道道南エリアをカバーエリアに入れ拠点化し、物流の拠点としての可能性について、もう少し考えられたらどうかと思う。
- ・青森市の港湾機能や道路機能、空港機能は、中継あるいは通過点として見られている印象があるため、本州から北海道に移動する人をどのように市内に滞留させるか、青森空港に

来た人を青森市でいったん止めて、その後どのようにうまく動かすか、それから、非常時に物流を滞らせないためにどのようにするのが重要であると考え。

- ・大型クルーズ客船が青森港に来たからといって、青森市を観光するわけではなく、観光バスで市外に行ってしまう。日本旅行業協会が都道府県別に観光消費額の推計値を出しているが、青森県も青森市も、観光消費額はあまり増えていないし、入湯税収入も伸び悩んでおり、県単位で見ると東北六県では最下位となっている。
- ・市民を出来るだけ公共交通機関で移動させるように、市民の利便性を確保するための道路整備と交通システムの構築を考えていくところに力点を置いていくことが重要であると考え。
- ・冬期間の市民の足は、普段バス路線を利用していない通勤者も、バス路線を利用せざるを得ない高齢者も、バス路線を利用するため混雑する。そこで、ねぶたん号を市民の足として、市民にアピールするとネットワークづくりが出来るのではないか。

(事務局)

- ・ねぶたん号は観光に注力しているところだが、市民の皆様の手としても利用できることから、市民の皆様にさらにアピールしつつ、市営バス、市民バスと連携して、市民の皆様が使いやすくなるよう取り組んでいく必要があると考える。

(委員)

- ・普段は自家用車に乗っている市民も冬場になるとバスに乗る傾向があるため、調査を行い、データを取っていただきたい。
- ・観光バスの代わりになり、市民の日常の足にも役立つよう導入したねぶたん号の現在の料金を維持することは、公金を投入し続けなければいけない難しさがああり、今後どうするか考えていかなければいけない課題である。
- ・ヨーロッパでは、バスがどこを走っているのかりアルタイムで分かり、青森市でも I o T (Internet of Things : センターと通信機能が組み込まれたモノがインターネットを通じてあらゆるモノと繋がり、互いの情報・機能を補完・共生し合う状態のこと) などを利用すれば、バスの利用客の不便が大分解消できるような気がする。
今後の課題に、公共交通の利便性をさらに向上させていく必要があることから、I o T と入れておくのはいかがか。
- ・利用客の多いバス停では、バス停の周辺が積雪しないよう融雪システムが導入されたり、待ち時間が分かるようになるなど、昔に比べ利便性が良くなっているが、一部のバス停のみとなっており、バスの情報サービスの提供は、始まったばかりということも課題としてもう少し具体的に記載した方がよい。

「防災・雪対策」分野

(委員)

- ・「防災・雪対策」分野については、実感どおりの記載にまとめられていると思う。

「環境」分野

(委員)

- ・以前何年間に渡り、駒込山系において町会や企業などで、ブナの植林をやっていたが、今も継続しているのか、それとも、終了したのか。

(事務局)

- ・植林する場所などが尽きたため、ブナの植林事業は終了している。

(委員)

- ・不法投棄対策については、市だけではなく、県も含めて進めていくべき。

○次回開催の分科会の日程等に関する事務連絡を行い解散。